Tokyo Tech

平成３０年９月２７日

報道機関　各位

東京工業大学広報・社会連携本部長
佐藤　勲

東工大×ロンドン芸術大学ＣＳＭ 産学実験プロジェクト

『10年後の東京、ひとはなにを着ているか？
－Existential Wearableを探して－』
発表会のご案内

10 年後の東京をわたしたちはイメージできるだろうか。そのとき、わたしたちはなにをまとい、なにを考えているのだろうか。「Existential Wearable＝実存的ウェアラブル」というものを提案したい。Ex＝外へ、is＝存在するもの。すでにあるものではなく、ここにはないものである（外にある）「実存（existence）」は、未来的でわたしたちの存在を導くタームだ。Wearable は未来にどんな形をとるのだろうか。私たちの存在をアシストし、自由をキープし、風のように開放的なものであってほしい。

東京工業大学とロンドン芸術大学セントラル・セントマーティンズ校（CSM）は、上記のコンセプトで、合同でカフェイベントやウェアラブル考案ハッカソンを行ってきました。東京で日本語、英語、アート言語、科学・工学の言語やメソッドが飛び交い、議論、制作が続きました。その発表会を開催します。高度情報化社会のおとずれが予想されるなか、わたしたちの「実存」はどんなウェアラブルを発見するのでしょうか。

【概要】

◇日時：９月２９日（土）１３：００～１６：３０（開場１２：４５）
懇親・アートセッションは、発表会終了後～１８：００

◇場所：渋谷ヒカリエ　ＣＯＵＲＴ（８階）

◇詳細・お申し込み：https://www.tse.ens.titech.ac.jp/~deepmode/news/1221/

※別紙　発表会ポスター

●東工大×ロンドン芸術大学CSM 産学実験プロジェクトとは？

通勤時にリュックとスニーカーという風景が普通に見られるようになりました。働きやすいウェア、高齢者や子供、障がい者をサポートするウェア、災害時に命を守るウェアなど、社会の問題を反映した、スマートな（＝考える）ファッションが求められています。

「10年後の東京、ひとは何を着ているか？」

このシンプルなテーマを掲げ、生命観、最先端テクノロジー、社会課題を踏まえ、都民、エンジニアや素材開発者たちの声を取り入れて、ロンドン芸術大学CSMアーティスト/デザイナー/哲学者チームとともに、全く新しい「ウェアラブル・ファッション」のデザインと提案をします。（注1）

●平成29年度東京文化プログラム助成「海外発文化プロジェクト支援」に採択

本プロジェクトは、公益財団法人東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京の平成29年東京文化プログラム助成「海外発文化プロジェクト支援」に採択されました。（注2）

（注１） ロンドン芸術大学セントラル・セントマーティンズ校（CSM）は、ロンドン芸術大学（University of the Arts London）の６つのカレッジのひとつ。世界のファッションスクールランキングで１位に輝き、ジョン・ガリアーノ、ポール・スミス、ジェイムズ・ダイソンなど、数多くの有名デザイナー、アーティストを輩出してきた名門校です。

（注２） この支援事業は、オリンピックの精神に基づき、史上最高の文化プログラムを展開するとともに、文化の面のレガシーを 2020 年以降に継承し、世界一の文化都市東京の実現につなげていこうとするものです。

【問い合わせ先】
東京工業大学 環境・社会理工学院　URA 米山晋
E-mail: yoneyama.s.aa@m.titech.ac.jp
TEL: 03-5734-2260

【取材申込み先】
東京工業大学 広報・社会連携本部 広報・地域連携部門
E-mail: media@jim.titech.ac.jp
TEL：03-5734-2975　FAX: 03-5734-3661

※ 取材をご希望の方は、別紙参加申込書でご連絡ください。

別紙

取材をご希望の場合は、お手数ですがFAXにてご連絡いただければ幸いです。

【　参加申込書（ 取材者専用　）　】

東京工業大学 環境・社会理工学院

東工大×ロンドン芸術大学ＣＳＭ 産学実験プロジェクト
『10年後の東京、ひとはなにを着ているか？
ーExistential Wearableを探してー』
発表会

【送 付 先】 **東京工業大学 広報･社会連携本部 広報･地域連携部門** **FAX 03-5734-3661**

貴　社　名：

御　名　前：

御連絡先　　TEL ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

E-mail ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

東京工業大学 × ロンドン芸術大学CSM 産学実験プロジェクト

10年後の東京、ひとはなにを着ているか？

10年後の東京をわたしたちはイメージできるだろうか。
そのとき、わたしたちはなにをまとい、なにを考えているのだろうか。
Existential Wearable＝実存的ウェアラブルというものを提案したい。
Ex＝外へ、is＝存在するもの。すでにあるものではなく、
ここにはないものである（外にある）「実存（existence）」は、
未来的でわたしたちの存在を導くタームだ。
Wearable は未来にどんな形をとるのだろうか。
私たちの存在をアシストし、自由をキープし、
風のように開放的なものであってほしい。

学生・社会人混成
ハッカソンチーム代表者

- Heather Barnett（CSM）
- Ulrike Oberlack（CSM）
- Betti Marenko（CSM）
- 野原佳代子
（東工大 プロジェクト代表）
- 津田広志（東工大）

東京工業大学 ×ロンドン芸術大学セントラル・セントマーティンズ校は、上記のコンセプトで、合同でカフェイベントやウェアラブル考案ハッカソンを行ってきました。東京で日本語、英語、アート言語、科学・工学の言語やメソッドが飛び交い、議論、製作が続きました。その発表会をひらきます。わたしたちの「実存」はどんなウェアラブルを発見するのでしょうか。お楽しみに。

Existential Wearableを探して

2018 9.29 sat

［開催時間］ 13:00-16:30 開場 12:45
懇親・アートセッション ～18:00

［ 場　所 ］ 渋谷ヒカリエ8/COURT

［申し込み］ DEEP MODE 準備室 東京工業大学 環境・社会理工学院　融合理工学系 野原研究室
http://www.tse.ens.titech.ac.jp/~deepmode/event-application-form/（先着順）

助成：公益財団法人東京都歴史文化財団
アーツカウンシル東京
協賛協力：旭化成株式会社、株式会社 SHINDO
後援：駐日英国大使館
技術協力：東京都立産業技術研究センター、
Autodesk Japan、株式会社 PIVOT

ARTS COUNCIL TOKYO　Tokyo Tokyo FESTIVAL　AsahiKASEI　SHINDO　東京工業大学 Tokyo Institute of Technology